

3月



ひよこぐみだより



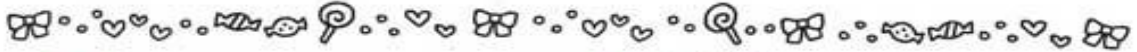
平成25年
3月1日発行
石田・岡・山田

保育目標

- ・進級に向けて、少しずつ無理なく環境に馴染んでいけるようにする。
- ・簡単な身の回りの事を自分でしようとする気持ちが生えるようにする。

早いもので、ひよこぐみで生活するのもあと一ヶ月となりました。一人ひとりのペースは違いますが、できる事が増え、心も身体も驚くほど成長したと感じています。

最近では移行に向けて、リトミックのお部屋で過ごす時間を少しずつ作っています。無理強いせず一人ひとりの状況を把握しながら、ゆくりと丁寧に進めていきたいと思っています。



生活

手洗いをしたら手を拭く事や、食事の際は手を膝の上に置いて待つという事が習慣づいてきました。朝の身辺整理も保育士が見守りながら、少しずつ自分でできる方になってきています。一人ひとりのペースは違いますが、できた事を誉めながら自信につなげていきたいと思っています。



描画

月齢の大きい子は、何度も絵の具を使った活動をしてくり返しているため、絵の具にも慣れ、ダイナミックに描く事ができていました。小さい子も自立でできるようになり、自分で筆を持って描く事ができました。これから色々な素材に触れながら、製作活動を楽しんでいきたいと思っています。



オムツ交換の際や着替えの際に衣服の着脱に興味が出てきたりします。又、リトミックのお部屋では、オマルや便器に座って便器での排泄も少しずつ進めていきたいと思っています。

自分でしようという思いを大切にしていきたいと思っていますので、脱ぎ着しやすい服装のご協力をお願いします。





りすぐみだより

2013年

3月1日発行

坂・伊藤

三鬼・松永・北原

〈目標〉

- ・移行に向けて新しい環境に馴染む。
- ・生活する中で、進級への期待を高める。

りす組のみんなと過ごすのも、早いもので残り14日となりました。

4月当分は不安いばい顔をしていた子ども達も、今ではたくさんのお友達ができ一緒に遊んだり、身体整理や衣服の着脱など自分でできる事が増えました。

また「自分でしたい!!」という気持ちも強くなってきて、食べ終わった後のお皿やコップを自分でお皿に乗せたり、使ったおしぼりを自分で下スに入れておぼろにしたりと身の回りのことを「自分でする」という子ども達の意欲がとても感じられます。

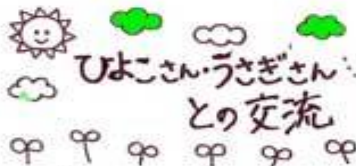
子ども達の「自分でしたい!!」という気持ちも大事にし、「できた!」と満足感を味わえるような関わりをしていきたいと思っています。



粘土でいろなものを作ったよ!!



子ども達は粘土遊びが大好きです。以前は保箱粘土に「○○作って!」「へ!」「へ!」と言う姿がありました。今では「アッパンマン作って!」「ハンバーグ!」など自分で色々なものを作れるようになりました。また最近では、ビーズモール、スパゲッティ、お茶の葉や椎の実など様々な素材を使い、一人ひとりバリエーションも作りました。ビーズをたくさんつけたり、粘土の中にビーズを埋め込む子など、子ども達の個性が十分に表れた作品となりました。今後は、紙粘土なども使って作品に色を塗ったりまた違う素材を使って色々なものを子ども達と一緒に作っていきたいと思います。



ひよこ組うさぎ組との交流

今、りす組では月齢の大きい子はうさぎ組と、小さい子はひよこ組と一緒にお散歩に出掛けたりなど様々な交流をします。うさぎ組との交流は、年上のお兄ちゃん達の姿をジッと見てアスをしようとしたり、子ども達同士で「ここはへせせ!」など教える姿もあり、子ども達にとって刺激の大きなものになったのではないかと思います。ひよこ組との交流では「自分より小さい子達と出掛けよう」ということへの戸惑いもありましたが、一緒に手を繋いだりお世話をしたり、いつもはまた違った子ども達の姿を見ることができました。こういった様々な交流を重ね、うさぎ組へ進級するこころの期待を持ってよりよい時間も過ごしていきたいと思います。





平成25年



3月1日発行

早川、穴澤
村山、田中

今月の 目標

- ・異年齢児と過ごすことを楽しみながら、進級に期待を持つ。
- ・戸外で春の自然物にふれたり、のびのびと体を動かして遊ぶ。



早くも3月となり、うさぎ組での生活も残すところあと1ヶ月ほどとなりました。4月に比べ、子ども達は心も体も大きく成長しました。子ども達の成長は私たちにとって元気の源になり、また、成長の喜びを子ども達と一緒に感じ合えたことにも感謝しています。うさぎ組での残り少ない日々を毎日元気に!! 楽しく!! たくさん笑顔で過ごしていきたいと思います。



♪ダンスの見せ合い♪



おゆうぎ会は終わったものの興奮は冷めきかず、保育園ではホールもステージに見立てて、「見せ合い」をしました。お兄ちゃん、お姉ちゃんの演技やダンスを間近で見て、うさぎ組の子ども達はとてワクワクした様子で楽しんでいました。自分達の番になると真剣な表情に変わり、少し緊張した様子もありましたが自分なりに頑張るとする姿にとり感動しました。見せ合いが終わってから「お兄ちゃんお姉ちゃん達が踊っていたダンスかしたい!」という声が聞こえてきたので、お兄ちゃんお姉ちゃん達にうさぎ組まで来てほしい「先生役」として踊ってほしいとお願いしました。踊っている子ども達は活き活きとした表情を見せ、その様子を見ていた子ども達も楽しそうな雰囲気になり笑顔になっていました。



りす組との交流

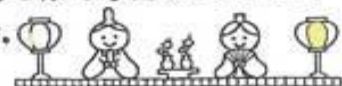


りす組(1歳児クラス)が4月からの生活に馴染めるように、移行に向けての時間を作っています。普段、うさぎ組ではどのような活動をしているのかを知るために一緒に散歩に出掛けたり、お部屋で遊んでいます。うさぎ組の子ども達はりす組の子を見て「靴はこうやって履くんだね」と自然とお手伝いが出てきたり、「手をたたごう」と優しく声を掛けるなど「思いやり」を持って関わろうとする姿がありました。相手のことを思い行動することは大人でも難しく、それを自然と出来る姿に子ども達は本当にすごいパワーを秘めているのだと感じました。これからたくさんの交流を通して様々な経験から「思いやりの心」を自分自身で育んでほしいと思います。



ひな祭り製作

- 3月3日のひなまつりに向けて、おだいら様とおひな様を作る製作をしました。着物を表現するために紙ナフキンを折り畳み、土着の部分に絵の具をつけて染め紙をしました。紙ナフキンを絵の具につける時には、端をそりと絵の具の中に入れて子や糸ナフキン全体をつけこむ子など様々な姿がありました。この一年で様々な製作活動をしてきましたが回数を重ねるごとに「自分らしさ」を表現出来る子が増えていきました。その中でも活動の内容によっては得意なこと「苦手なこと」があるようでしたが、まずは向き合い、一生懸命しようとする姿がありました。これから様々なことに挑戦してほしいと思います。





トトロぐみ ねんしょうだより



平成25年3月1日
発行
はがさわ保育園
片岡 渚



- ・進級に期待をもち、身のまわりのことに意欲をもって取り組む。
- ・生活習慣を身につける。



〈子どもの様子〉

今年度もいよいよあと1ヵ月とほりました。4月には保護者の方から離れるのが不安で泣いていた子どもたちも、今では笑顔でバイバイをし、友だちの輪へ入っていきけるようにはりました。友達関係もできはじめ、教員が集まり、ケイトロ、カルタ、家族ご、こと友だちと一緒に楽しんで遊ぶことができるようにはりました。

カルタとりでは、保育士が遊ぶに入らなくても自分たちでそれを読む側と読む側に分かれて遊ぶようにはりました。読む側の子は、とる側の子がわかりやすいように「あ、はら、あ」と言いながらそれを見せたりと、はらがはが分からはい子どもみんなが楽しめるよう工夫をする姿がありました。自分たちで遊ぶをはじめ、工夫し、遊ぶを上げていく姿に成長を感じ嬉しく思いました!!

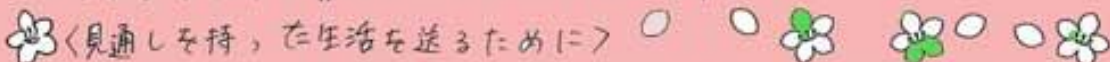


年中に向けて...

2月から3、4、5歳児が生活しています。子どもたちも「もうすぐ年中さん!」と1つ大きくなることを楽しみにしています。そこで年中に向けて2つの事を大切にして残りの日々を過ごしていきたいと思えます。



自分のことは自分でできるよう、持ち物や身回りの身辺整理をしています。今までは年中、年長児に声をかけてもらったり、教えてもらってききましたが、今度は教えてあげる側にはります。最近では「ジャンパーたたきあかんよ!」と友だち同士で教え合いたたきあかんよ、スリッパをきれいに揃えてはらべている姿が見られるようにはりました。一人ひとりが身のまわりのことに気づき、自分のことは自分ですることができるようはかを育んでいきたいと思えます。



集まりの中で、子ども達に伝えたいことや、今からの活動についての流れを話しています。一日の流れを知る事が見通しを持ち、自分でどうしたらいいのかを考え、動く事ができるように丁寧に一つひとつの事を伝えていくようにしています。





ながさわ保育園
平成25年3月1日発行
平塚 未来



- 年長組になることへ期待をもち、様々な活動に意欲的に取り組む。
- 季節の変化を感じながら、戸外で体を動かして遊ぶ。

〈クラスの様子〉

年中ぐみになって1ヶ月…。もうすぐながさわ保育園で一番お兄ちゃん・お姉ちゃんの子の年長ぐみになります。4月当初は、なかなかなか落ち着かず、騒がしくなってしまうことも多くありましたが、今では集まりでしっかり話を聞けたり、集中できる時間も増えてきました。また、小さい子たちに優しくする姿を見るとすっかりお兄ちゃん・お姉ちゃんになってきたな、と日々の成長を感じます。

あと10月で年長ぐみということでは、集中して話を聞く時間を少しずつ増したり、時計を見て行動するなど来年度に向けて取り組んでいます。まだなかなかに「いけないことはいけない・きちんとする時はきちんとする」などの切り替えができないことがあるので、しっかりと伝えていき、自分たちで気付いて行動できるようになり、年長ぐみになった時に年少や年中の子たちに教えてあげられるようになってもらいたいと思います。

ダンス

おゆうぎ会でライオンぐみの子たちも踊っていたダンス、『シー・ハー・ハー』のゴキウダンスや『じいぶら』をとお部屋で毎日踊っています。

最初は覚えている所だけを踊っていましたが、ライオンぐみの子たちが教えに来てくれて、だんだん覚えていき、今ではとても上手に踊ることができるようになりました。

自分たちで音楽を流して楽しんで踊り、『ライオンぐみになったらAKB踊りたい!』という声もたくさんあります。

おゆうぎ会やダンスを通して、ライオンぐみへの憧れが大きくなり、来年度への期待も高まっています!!

製作

おゆうぎ会の絵を描いたり、おひなさまを作ったりと、製作をする時間もたくさんありました。

今回のおひなさまづくりでは、グループごとに座り、一斉に製作をしました。みんなで作ると終わる時間はバラバラですが、早く終わった子は、きちんと座って待つことができ、まだできていない子に教えてあげる姿もありました。

クレヨンやのりなどもグループに一つずつ置くと、『それ貸して〜』『00取って!』『いいよ!』と順番を守って中間で使うことができていました。

このような製作の時間を増やしていきたいと思っています。





ピノキオぐみ ねんしょうだより

平成25年 3月1日発行
山本 真南帆、志賀美穂



3月の目標

- ・進級に期待をもち、身のまわりのことに
意欲をもって取り組む。
- ・生活習慣を身につける。



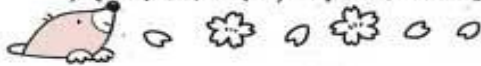
《子どもたちの様子》

- 2月から、3・4・5歳のそれぞれで過渡 異年齢での生活を送っています。それに
○ 伴って子どもたちも年中になることを意識した生活となり、子どもたち自身ももうすぐ
○ ひつ大きいワラスにならんと、期待が膨らんでいるようです。



集まりで「しずかに!」と声をかける子もいれば、帰りの準備で「ジャンプはたたむんだよ」と教えてあげたり、その時々での「気付き」を覚悟して「気付き合う」姿をよく目にするようになりまし。また、最近ではひらがなへ「関心」をもち子が多く、友だちに絵本を読んであげたり、カルタでは、ひらがなが分からない子のために読み札を見せながら、自分たちで遊びを展開していく姿には、すばいなと成長を感じました。

ルールのある遊びをするようになって、友だちと仲良くすることもありますが、ちねんとの異年齢生活の大きい姿が、今の子どもたちの姿に生きている様子が見られ、とても嬉しいです。

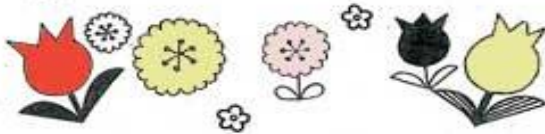


《年中に向けた生活》

年少として4月から過ぎてきて、約1年が経とうとしています。たくさんできることが増え、友だちの輪を広がってきました。泣いて登園してきていた子も今では落ち着いて自分から遊びの中へ入っていきけるようになり、自分の居場所を見つけてきているようです。そこで、年中になるまでに今の生活をもう一度見つけ直し、活動の場面ごとに丁寧に間をのこすことを心掛けていきたいです。

🍊 身辺整理 🍊

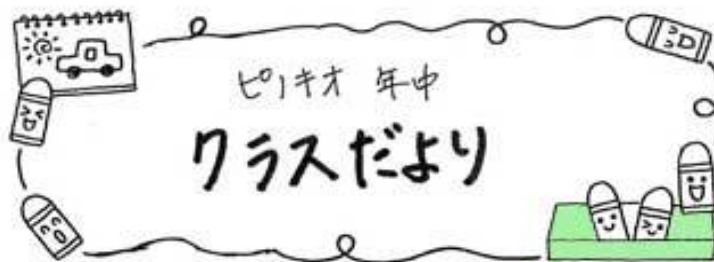
朝の登園時から身辺整理は始まっていて、子どもたちも自分で行っています。自分のことは自分でする習慣を今からつけていくことはとても大切なことです。まずは、子どもたちの手で行えるように促し、財着ということも援助のつたと考え、「自分でやる力」を少しずつ培っていきたいと思います。



🍊 見通しをもった生活 🍊

- 今、集まりは、朝・給食前・午睡前・降園前の4回行っています。どの集まりも、次の活動の見通しがもてるようにする。話を聞く時間です。
- 話を聞くときは聞く、活動するときは参加する。
- こういった生活の節目で「今、何をすると、どうすればいいのかな」と自分で行動できるようにするために、まず集まりで聞く姿勢ができるように年中へ向けた準備をしていきたいと思





平成25年3月1日発行
黒宮 由佳

3月の目標

- ・年長組になることへ期待をもち、様々な活動に意欲的に取り組む。
- ・季節の変化を感じながら、戸外で体を動かして遊ぶ。

クラスの様子

<ダンス>

おやうざ会が終わり、1ヶ月が経ちましたが、年中ぐみの部屋では、毎日のようにダンスの曲が流れています。中でもライオン組のダンスは、おんばのお気に入りです。積極的に踊る姿が見られます。ライオン組のうさぎの前で見本を見せてくると、見よう見まねで踊ったり、じっと観察しながら振りを覚え、私たちも驚くぐらい、日に日に上手に踊れるようになっていました。隊形移動など、全員で楽しく踊る姿もたくさん見えています。見ていて、とても微笑ましい光景です。そんな子どもたちの姿から、ライオン組への強い憧れを感じることできました。



<来年度に向けて>

今年中ぐみでは、集まりなどで、「次はライオン組になる」「年下のうさぎの憧れになるように!」などという話をし、おんばたち一人ひとりが、「ライオン組になる」という意識をもてるようにしています。また、活動では、椅子に座り、一斉に製作をしたり、少し長めの話の絵本を数回に分けて見ました。製作では、以前に比べおんばに集中することができていて、グループ内で助け合ったり、できていないおんばを待つということもできていました。絵本では、いつもより長い話でしたが、おんばに集中して見ていて、続きを楽しみにしたり、おんば同士で絵本について話す姿もありません。ライオン組になるまで、あと1ヶ月、子どもたちがもっと「ライオン組になる!」という意識をしっかりと持てるように、そして年下のうさぎの憧れのある存在となるよう保育していきたいと思っています。

一年を振り返って...

今年度は、一年のほとんどを年中ぐみだけですごしました。今では、集まり、給食、おやつと、いろいろな活動のつぎ、その時に合った姿勢ですごせるようになってきました。集団おんばや録音、字を書くことなど、一人ひとりでできるようになって、おんばもたくさんあります。行事が通って、人前に堂々と立ったり、年下のうさぎをリードしたりと、成長した姿を見ることできました。また、約一年間、年中ぐみ8人ですごしたことで、子どもたち同士の仲もとても深まりました。一年間、子どもたちとすごし、たくさん成長を見ることできたことは、私にとってもとても嬉しいことです。子どもたちと、この一年の経験、思い出がライオン組へとつなげていければと思います!!





平成25年3月1日発行
東 美生
野田 拓一
山

3月の
目標

- ・就学への期待を持ち、自信をもって生活する。
- ・残りの園生活を反だちと思いきり遊び
楽しい思い出をたくさん作る。



3月に入り、卒園まで残すとこの一ヶ月となりました。子どもたちも卒園就学が近づくにつれ、寂しい気持ちと楽しみでわくわくした気持ちがあるようです。保育園でも生活面や学習面など、いろいろな部分においてこれからを、もっと意識し、準備をしていきたいと思っております。

ライオンぐみに進級してかまいません。この一年を振り返ると、子どもたちの成長した姿をたくさん見ることができました。「夏のつどいや運動会」では、年長児として任されることも多く、一人ひとりが責任を持って意欲的に取り組む姿がありました。年長児として園全体を引っ張っていきなす姿もみられました。おゆうぎ会では、出演者も多く大盛り上がり、自然と年下の子どもをリードする姿がみられ、ダンスも年長らしく、取り組むことができました。やりに遊べた時の達成感も子どもたちにとり、大きなものになったのではないかと思います。また行事や活動、お出掛けをする中で、子ども同士の関わりも多くなってきたように思います。最近では、何か遊びを始めると自然と人数が増え、大勢で楽しむ姿がよくみられます。



学習面では、月1回「ライオンワーク」として一週間、年長児で過ごす「おべんきょう」の時間を作り、子どもたちの学習への意識、意欲を少しずつ高めることができましたように思います。2月からは年齢別での生活が始まり、毎日行っている「おべんきょう」では、まだまだ課題もありますが、集中力を高め、授業中のルールも少しずつ守れるようになってきました。小学校への期待もより大きくなってきたと思っております。

ライオンぐみとしての一年間、お泊まり保育や他園との交流など、年長児だから味わうことのできた活動もたくさん経験し、子どもたちにとっていろいろなことを見て、触れて、感じ得るものを多かつたと思っております。保育園での生活を残り少ないですが、その時間を大切に、みんなで楽しい思い出をたくさん作っていきたいと思っております。

